

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校

校長 藤井 雅乗

令和 2 年度 「学校教育自己診断」の結果と考察について（ご報告）

日ごろは、本校の教育にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、昨年 1 1 月に実施しました『学校教育自己診断』の集計結果がまとまりましたので、ご報告します。今回の結果とご意見を次年度に生かし、さらに充実した教育活動を展開していきたいと考えています。

今後とも、ご協力、ご支援のほど、よろしく申し上げます。

1. 実施時期・実施方法

- 【保護者】 10 月下旬～11 月上旬に配付、回収
- 【児童生徒】 小・中学部：児童生徒の実態に応じて授業内で実施
高等部：10 月下旬に各学年で実施
- 【教職員】 10 月下旬に配付、回収

2. 提出率（過去 3 年の比較）

	学部\年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
保護者	小学部	94.1%	93.4%	92.2% (107/116 名)
	中学部	90.9%	87.0%	85.5% (94/110 名)
	高等部	84.5%	84.7%	80.6% (75/93 名)
児童生徒	小学部	13.7%	8.4%	13.8% (イ16/116 名)
	中学部	87.9%	93.0%	67.3% (イ29・文45/110 名)
	高等部	75.2%	65.3%	82.8% (イ28・文49/93 名)
教職員		98.4%	99.2%	99.2% (131/132 名)

※児童生徒 イ：イラスト版、文：文章版

3. 結果報告（集計の詳細は学校 Web をご覧ください）

●保護者向け診断票

肯定的回答（A. よくあてはまる+B. ややあてはまる）の割合について

全 23 項目中 90%台…22 項目 80%台…1 項目

- ・肯定的な回答が多数であった。 11 項目が 95%以上、A が過半数を超えている項目が 19 項目、最も肯定率が低い項目でも 87%とおおむね高い評価を得られている。
- ・項目 11、12、13、14 は無回答率が 20%を超える項目となった。

- ・昨年度より肯定的な回答が10%以上上がった項目は以下の2つ。どちらも実態に合わせて文言を変更したことが影響していると考える。

◆項目6「授業は子どもたちが楽しくわかりやすいように工夫されている。」

H30 85% → R元 83% → R2 93%

◆項目22「情報提供の手段として、学校のホームページやメール配信サービスが活用されている。」

H30 84% → R元 74% → R2 90%

●児童生徒向け診断票

肯定的回答（文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」）について

〔文章版〕 全20項目中

90%台・・・8項目 80%台・・・9項目 70%台・・・2項目 60%台・・・1項目

〔イラスト版〕 全8項目中 90%台・・・8項目

〔文章版、イラスト版共通項目〕 全8項目中 90%台・・・6項目 80%台・・・2項目

- ・肯定的な回答が多数であった。昨年度は全体的に評価が下がったが、今年度は回復した。

（昨年度より全体的に評価が上がった。）

- ・昨年度10%以上上がった項目の「教室や特別教室、体育館などは授業や生活がしやすいように整っている」となっているは、今年度回復が見られた。H29 74% → H30 94% → R元 82% → R2 92%

●教職員向け診断票

肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について

全40項目中 90%台・・・25項目 80%台・・・12項目 70%台・・・3項目

- ・肯定的な回答が多数であったが、70%台の項目数が1→3項目に増えた。

- ・昨年度と比べて、肯定的な回答10%以上上がった項目は以下の2つ。

◆項目21「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員は意欲的に取り組んでいる。」

H29 82% → H30 67% → R元 81% → R2 70%

◆項目20「学校運営に、分掌部会や学部会、学年会などの会議の内容や教職員の意見が反映されている。」

H29 87% → H30 82% → R元 90% → R2 79%

●各診断票の横断比較について

肯定的回答と否定的回答で分けたときに、10%以上の有意差がある項目はなかった。5%で判断すると、「人権尊重」と「学習評価」の項目において、児童生徒と保護者/教職員の間に差が見られた。児童生徒一人ひとりが、自分が大切にされ、努力や成果を認められていると感じられるように、より丁寧に関わっていきたい。

4. 意見について（別紙参照）

5. 考察および今後の課題

- 今年度もたくさんの保護者にご協力いただき、高い回収率となった。個々では様々な意見があるものの、肯定的な回答が多数であった。

○保護者向けの診断では、無回答が20%を超えている項目が4つ（項目11、12、13、14）あった。昨年度無回答が多かった「授業のわかりやすさ」と「校長のリーダーシップ」については、内容を少し変更したことで回答数が増えた。「いじめへの対応」についての無回答は、実際にその状況になっていないのでわからないという意見が複数見られた。

また、進路やいじめに関する項目では、小学部での無回答率が高く、中学部、高等部と児童生徒の課題の変化に伴い、回答率も上昇している。

○児童生徒向けの診断では、「先生には、自分の気持ちを言ったり相談したりできる」という項目の肯定率が78%と全体の中では低めである。「理解してくれている」「大切にしてくれている」の肯定率は90%を超えているが、自分からはなかなか発信できていない状況にあることがうかがえる。障がいによる言語表出の未熟さと思春期前後の児童生徒の心情の双方を踏まえながら、観察、状況把握を丁寧に行い、適切に支援していくことが必要である。

【今後の課題】

○**人材育成**・・・今年度は、教員研修も中止になったものが多かった。そのため、研修に関する項目の評価は昨年より低くなっている。一方で、公開授業週間や授業略案の活用については、昨年度より肯定的回答が7%増えた。継続的に啓発してきた効果だと考えられる。

保護者のニーズが高い指導力向上、授業力向上をはかるためにも、授業スタンダードの周知、指導略案を活用したフィードバック等を引き続き行っていきたい。

○**業務分担**・・・教職員用の診断項目21「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担～～」において、昨年度は少し数値が改善したが今年度はH30年度と同様の結果に戻った。また、全40項目の中で最も肯定的回答が低かった。引き続き各部署からのヒアリングをもとに主任・分掌長等の交代も促進しながらバランスの取れた業務分担をめざしていく必要がある。

○**ICTの活用**・・・今年度より保護者用にも診断項目として追加した。保護者用項目の中では、Aの割合、肯定率、共に低い項目となっておりニーズの高さがうかがえる。また、教員からも機器・設備の不十分さの改善を求める意見がある。今後、GIGAスクール構想等による予算配当もあるが、機器をそろえるだけでなく、日ごろのメンテナンス等も課題として考えられる。また、より充実した活用のためには、教員のスキルアップも必要であり、そのための取組みも学校として検討していきたい。

6. 学校運営協議会より（詳細は、別途Webページに掲載予定の「学校運営協議会実施報告書」参照）

○一般的に、回収率が高い場合は、学校教育への関心の高さと好評価を表していることが多いので、保護者の学校への大きな信頼を感じる。異例尽くしの学校生活の中で不満が増大するのではなく、懸命に取り組む先生方の気持ちが伝わっているのはよいことである。

○教職員自らが職務に必要なスキル獲得のために努力しているかどうかの項目を追加することを検討してはどうか。また、保護者向けでは、評価が高いので、今後改善点が見いだせるように項目の見直しが必要ではないか。

○「より良い指導ができるためには」ということを考えると、そこで働く教職員の働きやすさや連携が大切である。今回出された教職員からの意見を大切に取り扱い、解決していくことで、教職員がより児童生徒たちと向き合えるようになり、良い学校教育につながると思う。